

大阪錦繪新話

第六号



尾州豊橋札木町。因田火作との小者へ日頃邪見あり
其上。女房おせきと常々。非道よある不人情も
あつと。評判と。りり。哀まふびんさ。二月三日の
事。女房おせきと引よせ。此頃午前のそつり
で。姦夫おせきは相違。白状。と。責め。して。
おせき。あ。の。身。を。見。る。さ。き。け。い。も。聞。い。ま。さ。ど。
悲。し。い。あ。さ。け。内。儀。と。柱。は。縛。り。無。法。ま。も。
焼。き。も。も。責。め。ら。る。お。せ。き。が。五。臓。を。焼。た。ま。し。
す。で。は。命。も。危。き。あ。そ。や。其。悪。事。が。
あ。ら。ま。さ。て。忽。ち。火。作。へ。召。し。よ。ま。し。
と。と。と。ふ。仕。合。い。の。お。せ。き。身。の。

せめがきで亭主へ。と。い。ま。さ。
と。お。め。い。し。と。い。か。わ。の
そ。う。で。い。ご。さ。り。ま。し。
せんり



略誌画圖 笹木 芳瀧

阿波文叔 彫福三